

夕刊 磐城時報

行 發 日 三 十
編輯兼發行 岡田弘成
印刷所 磐城時報社
印刷部 磐城時報社
一、部金貳圓、一月金貳拾圓
廣告料一行十四字諸五十錢
日刊(日曜祝祭日)週日休刊

三百圓を拾得した 植田郷分會長

謝禮を固辭して受けず

四倉町観川一、一番地権崎辰次出た處、牧野氏は固辭して受け、如く、平土木監督所に工事費
郎(六八)氏は十二日湯本町に於ける十三日植田町に於ける、延長八十米
り得意先より金三百圓を受け取りを訪問し、金五百圓を差出した處、延長八十米
午後七時頃同席待合室で便所に同席退席したので、權崎氏も同席退席したので、延長八十米
行つた際紛失したので、青くなつた牧野氏が植田町在郷軍人分會長
百圓は植田町在郷軍人分會長(圓を密附したが、牧野氏の誠意
八)氏が拾得員に届け出たに一般で感謝してゐる。

内郷村罹災者に 同情翕然と集る

見舞金千圓に達す

内郷村宮の大火罹災者に對し八
日迄に各方面から六百七十三圓
の見舞金が同村の内郷長鈴木
金五郎氏を通じて贈られ罹災者
一同を感泣させてゐる

▲十圓市内鐵工場▲十圓内郷
村廣木屋商店▲十五圓内郷村
宮本方一同▲五十圓磐崎村上
湯長谷若松惣太郎▲三圓内郷
村宮酒井吉兵衛▲八十七圓同
村宮酒井吉兵衛▲八十七圓同
村宮酒井吉兵衛▲八十七圓同
平太郎組合▲二十四圓同村
田組合▲十四圓金坂五十嵐一也
▲五圓宮高萩依重▲四十二圓
▲五十圓竹の内組合▲十四圓組
合▲十圓竹の内大塚▲三十圓へ

一網で四千五百圓

小名濱の壺網

小名濱町宇古港齋藤清吉氏の壺
網は二日間イナダ二千五百貫
四千五百圓の大漁を見た

飯野村の兎

石城郡飯野村の養兔品評會
業所▲三十圓日野炭礦▲業所
▲同業炭礦▲十圓平太郎江連
▲同業炭礦▲十圓平太郎江連
▲同業炭礦▲十圓平太郎江連
▲同業炭礦▲十圓平太郎江連
▲同業炭礦▲十圓平太郎江連
▲同業炭礦▲十圓平太郎江連
▲同業炭礦▲十圓平太郎江連
▲同業炭礦▲十圓平太郎江連

一、口腔外科 二、レントゲン科

中野齒科

平市町(電五〇九)
院長 中野 惠次

石城蒟蒻

石城郡南の特産品であるコンニャクは既報の如くコンニャク粉六萬七千五百貫餘、生玉三千三百五十貫餘の豫想に對し漸く出廻り期となつたが今世の相場は精粉一駄四十五貫一(松印)五百三十四、荒粉二百八十圓乃至二百九十圓で前年比で精粉百八十四圓から二百圓、荒粉は八十圓から百十圓高と云ふ好價なためこの總額八十萬圓に達するものと見込まれてゐる

野木氏美譽

平市新川町木炭商野木氏吉氏は過般草野米彌氏配給にかゝる木炭を取次ぎ利益金三圓を得たので十三日平署を通じて國防献金した

草野品評會

草野村青年團及び村農會共同主催の農産物品評會は十七日同村小學校で開く

三十圓寄付

小名濱町宇上町石田フクさんは雜費を節約して三十圓を同町車事後援會に寄附した

勿來の火事

勿來町大字酒井下敷町野東一(同)藤氏方から十一日午前八時火し同家二棟を全焼同四十分鐘火し同(山崎金子上荒川)

磐城丸大漁

鮪一萬圓漁獲

小名濱水産試験場磐城丸は金華山沖にメカジキ鮪漁場調査のため出帆中であるが、メカジキ八十三尾、吉切鮫百尾、合計一萬五千圓に同方部海洋観測のため出帆する

四十圓盜む

栃木縣那須郡大内村大字大内生れ内郷村高坂磐城炭礦高坂住吉坑坑夫武土順一(三五)は去月十九日合宿所根市太郎氏方居住尾形節夫の行李の中から現金四十圓を窃取逃走中十三日警署前で平署員に捕はれた

少年の泥棒

須賀川町宇塚田十一生れ磐城坑夫福岡勝太郎(十八)田村郡岩井村宇下舞木生れ同田中成吉(十八)何れも假名は十二月八日同村聯合宿所網和寮止宿場藤正夫所有腕時計八個、伊藤與七所有洋服、襟巻、シャツ等を窃取した事發覺、十三日平署に捕はれた

平市人事錄

○出生 本籍鎌田町四四神奈川縣川崎市中島町一丁目三三八一(同)國七郎長男洋一郎君
△婚姻 東京市葛飾區小菅町四四六戸田盛氏(二六)南町三

中支へ送られた 「生きた慰問袋」

3陸軍省軍兵部との打合十一月下旬出發の豫定を以て準備を完了した一行は出發命令に未だ接しないので、清水團長に電話で言合せた處十一月二十一日清水團長は上京され陸軍省軍兵部に淺野軍一步兵中佐に面會され一行は出發せしむる豫定された處目下郷土部隊は殘敵掃蕩中な

中島湖洲記

が故に、十二月中旬に出發し一月下旬に歸還の豫定より方法なしと詳細に説明をせられたので、其の事情を諒として其指示に従ふことに決意され、而して出發に對する詳細の注意共の他の指示を詳細に聽取され、向は上京大佐殿より板垣大臣閣下宛慰問團に關する書面を持参して行かれた

一佐藤トクヨさん(二〇)
▲死亡、四町目二百澤源子(二ツ)さん

天氣豫報

今晚モ明日モ北西ノ風時々曇リ

店 商 屋 釜
電九・九九番

健康の秋!

一家揃つてハイクの
お歸りに……

小瀧鑛泉

湯本・小名濱間景勝の地御送迎に馬車を用意あり

南内薬局

宮城縣知事殿
演藝慰問團に關する通知
昭和三十六年十一月二十九日

金融無盡

簡易、貯蓄、趣味、貯蓄

塩豚

コンボーク
平市町
三三三三三
電話三三三三番

債券・公債

兩替・金融

多田井質店

平市大工町 電五九一

宮城縣知事殿
首題の件に關し別紙要旨の通り陸軍省より回答ありたるに付通達す
追而該回答に依る派遺期日を早めらるる様交渉せしめ軍の都合に依り十二月月中旬内地出發一月中旬歸還する如く定められたるに付關係方面を指導相煩度申添ふ
陸軍省第七六二二郷
陸軍省派遺に關する件
昭和三十六年十一月九日
陸軍省軍兵部
○部隊司令部御中

精動通信

十二月十四日の義士祭を迎へて
軍國下に赤穂義士を語る

小野清秀

楠公は生きてゐる、公は現に何事も成功しないばかりでなく第一線に立ちて英豪颯爽として却つて笑ひを千載にのこすこと三軍を叱咤してゐる、更に内なるなるのである。早稲早冷の日に在りては銃後の幼稚園に至るま、本人は殊更ふかく此の点を反省で、忠孝一本の大義、滅私奉公し注意すべきである、あつて、の大節と身を以て訓練して居るは、いけぬ、蘇聯がどうの、米國赤穂の四十七士は切腹したが、が何だと騒ぐのはよくない、時その忠魂義膽は常に社會の先頭、至り燃焼すればおのづから往々に立ちて、士氣を鼓舞し、内にべき道が附け、何事も片付くものである。初め赤穂開城の時より、いよ最後切腹に至るまで、彼等はよく節度を守つた、時には

元祿快學の當時、乾燥なる法理論もあつたが、それは野暮の骨頂である、直接行動は武士の不文律、食糧〇饑なる饑饉を倒すだけにも、人道上の痛快事であるが、まして譜代君公の遺志をつぎ、大義名分の下に堂々仇を打ちたるは、まさに道義の最高峰といふ他はない。特に現下の非常時局にあたり吾々日本臣民が大いに義士に學ばねばならぬことは、四十七士が一心同体であり、四十七といふも、實は一大石であり、否、大石も何もない、たゞ義といふ一字の結晶であつたのである。一億一心もこれに則たらねば徹底しない。

次に彼等の内には氣統の壯士が多かつた、腕が鳴る、寸時も待ちきれない、即戦即決の心火はなかなか抑へきれなかつた、そして又一方には貧苦困難に耐へがたきものもあつた、併し彼等はよく陰忍持重した、涙を拂ひ、齒をくひしばつて機を熟するを待つた、この陰忍があつてこそ始めて目的を達し得たのである、如何に強く、いかに腕が逆者でも、その時を得ねば

適正價格……秋冬荷揃へ
常に商品豊富
御用命は……
平市 三井呉服店へ

銃後の作家計費引下に
一日のサレビスデーを
活用して下さい
平マケド

漢方生公華
貼薬
湿布で名薬
助膜・気管支・關節・神経痛・肺炎・ロイマチス
膜・腰痛・中耳炎・骨
平市 五丁目 角
山野邊藥局

貸地廣告
平市 新田前二六番一 (縣道二副二西側)
間口四間一分 六十坪
奥行 十五間
貸地料一坪二十五錢ノ割
洋細ハ左ニ御問合せ下サイ
中市 大町
中野勇吉商店
電話一三三番

御婚禮 御法事
御會食 御宴會
尙ほ季節料理
平市 田町 電話一七一番
料理部

吸入用酸素純度99%
度量衡
ハカリ
モノサシ
ハカリ
体温器
寒暖計
關内藥局
電話四〇番

安田生命 保
日本共立火災 險
東京動産火災 險
平代理店 井上貞治郎
平市 五丁目 角 電話六六番

おでん 酒の店
やき鳥 味郷
茶めし
平市 三田小路

國策線上ノ改良品
鑄物の代用品生る
セメント製マンホール 金三〇錢各種
同 風窓 網 金三〇錢各種
平市 南町二〇
發賣元 野内商會
電話一一番
燒土管 在庫豊富

額賀囊儀病氣ノ處養生相不叶十
一日午前十二時五十分逝去致候間
此段御通知申上候
追テ葬送ノ儀ハ十五日午後一時自宅出棺
海岳寺ニ於テ告別式施行仕候 時節柄造
花供物等一切御辭退可致候
昭和十四年十二月十二日
喪主 福島縣四倉町
親戚總代 市木高 額賀永 大賀 叶賀 額賀 男
友人總代 市木高 額賀永 大賀 叶賀 額賀 男
市木高 額賀永 大賀 叶賀 額賀 男
原村木 賀元 井方多 賀賀 正
卯寅 清之 勝哲 誠
郎治 助郎 三也 敏毅 誠

これは便利!
★手を荒さず
★絹、毛織物、木綿、スワの生地を傷めず
★つけておくだけで洗へる
美 マルミ 粉末石鹼
製造元 平市 材木町一

帝都演藝豪華名流家來る
浪曲界の豪華
廣澤 虎若
神田 伯龍
鈴木照子嬢
丸山和歌子
日時 昭和十四年十二月十九日
正午より 午後五時より
主催 磐城通信社
後援 平市役所
會員券賣場所 八十錢
材木町 鈴木タバコ店 長橋町角 昭和活版所
新川町 磐城通信社 一丁目 理髮店
佐藤美髮店 紺屋町 一丁目 白土米店 床